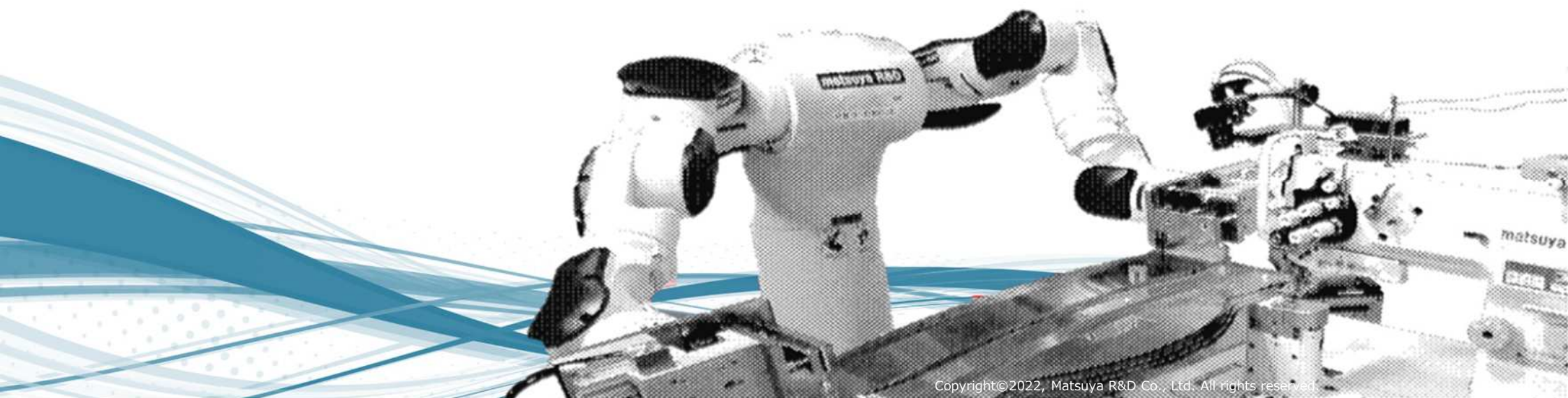


株式会社松屋アールアンドディ（証券コード：7317）

2022年3月期決算説明資料

（2022年05月）



2022年3月期実績：サマリー

- ・対前年同期比において、特需であった厚生労働省からの公募案件によるアイソレーションガウンの受注がなくなったことによる影響が大きい。（前年度アイソレーションガウン関連：売上高2,062百万円、営業利益560百万円）
- ・ベトナムにおけるコロナ対策規制解除後の11月より、順調に生産が伸びたことで、前年比ではアイソレーションガウンの影響を除けば、増収増益となり、売上高については過去最高となった。

（単位：百万円）

	2019.3 通期実績	2020.3 通期実績	2021.3 通期実績	2021.3 通期実績 <small>アイソレーションガウン除く</small>	2022.3 通期実績
売上高（※1）	4,504	5,042	7,269	5,206	5,640
売上総利益	959	1,207	1,645	1,061	1,187
売上総利益率	21.29%	23.94%	22.60%	20.38%	21.05%
営業利益	180	407	838	277	355
経常利益	223	380	830	269	408
税引前当期純利益	222	380	831	270	291
親会社株主に帰属する当期純利益	113	223	568	184	165
1株当たり当期純利益（円）	25.26	49.56	109.83	35.60	31.42

1. 売上高については収益認識会計基準を遡及適用した金額を記載しております。
2. 2019年3月期、2020年3月期の売上高の金額は収益認識会計基準を適用したとして算出した推定値となります。
3. 1株当たり当期純利益は2021年9月30日における株式分割を2019年3月期の期首時点で行ったと仮定した数値を記載しております。

2022年3月期実績：セグメント別売上高&利益

- ・縫製自動機事業においては海外案件も少なく、研究開発費の増加が影響。
- ・縫製品事業においてはアイソレーションガウンの公募案件減少による影響で売上高・利益ともに減少しているものの、アイソレーションガウンを除いた既存事業では売上高増加となった。
- ・本社費&調整費については新規事業開拓への投資のほか、連結グループ内での固定資産に係る未実現利益の増加によるもの。

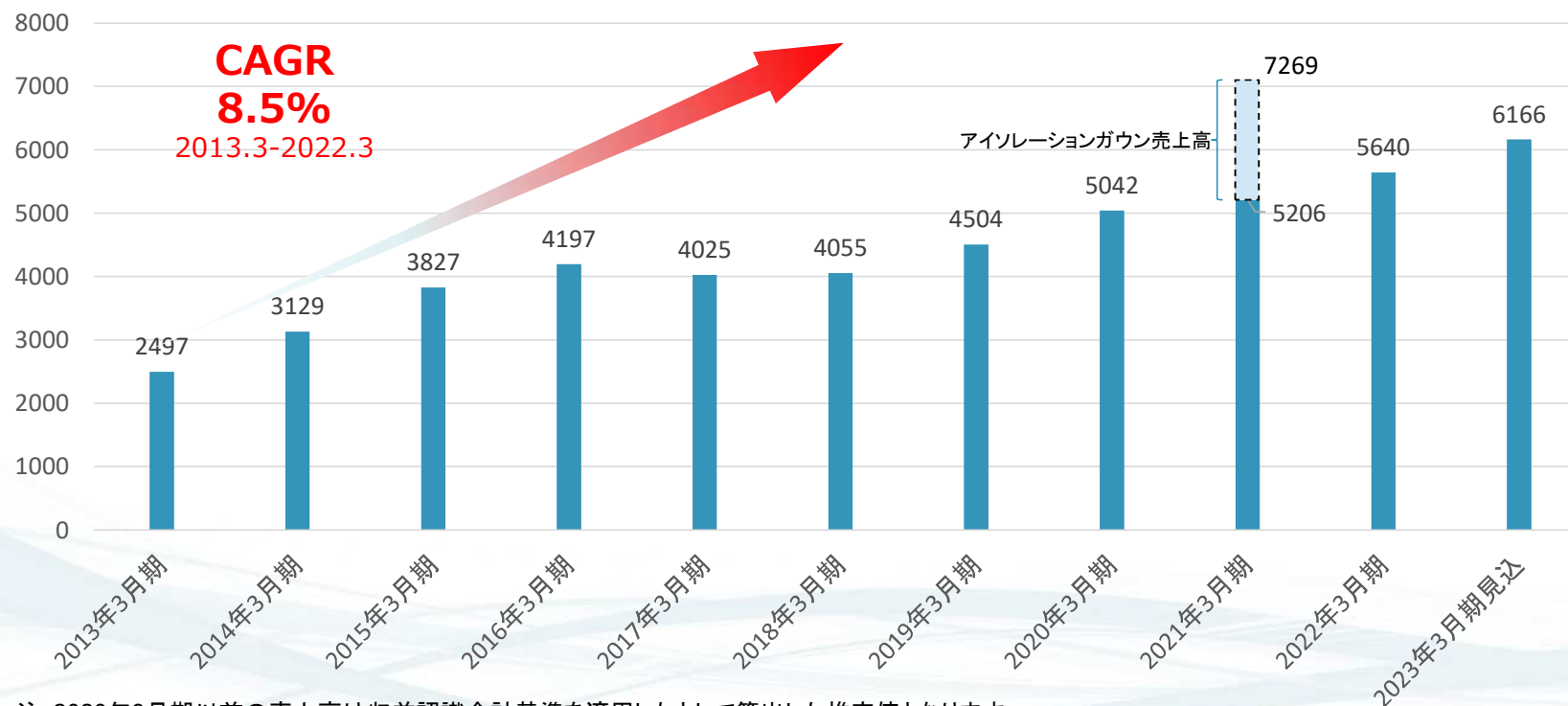
(単位：百万円)

	A	B	C	C/B
	2021.3 実績	2021.3 実績 <small>アイソレーションガウン除く</small>	2022.3 実績	前期比 <small>アイソレーションガウン除く</small>
売上高 (セグメント間売上含む)	7,269	5,206	5,640	108%
縫製自動機事業	563	563	385	68%
縫製品事業	6,726	4,663	5,325	114%
調整額	△20	△20	△70	—
セグメント利益又は損失 (△)	838	278	355	128%
縫製自動機事業	△59	△59	△113	—
縫製品事業	1,138	578	815	141%
本社費&調整額	△241	△241	△346	—

2022年3月期実績：年間売上高の推移

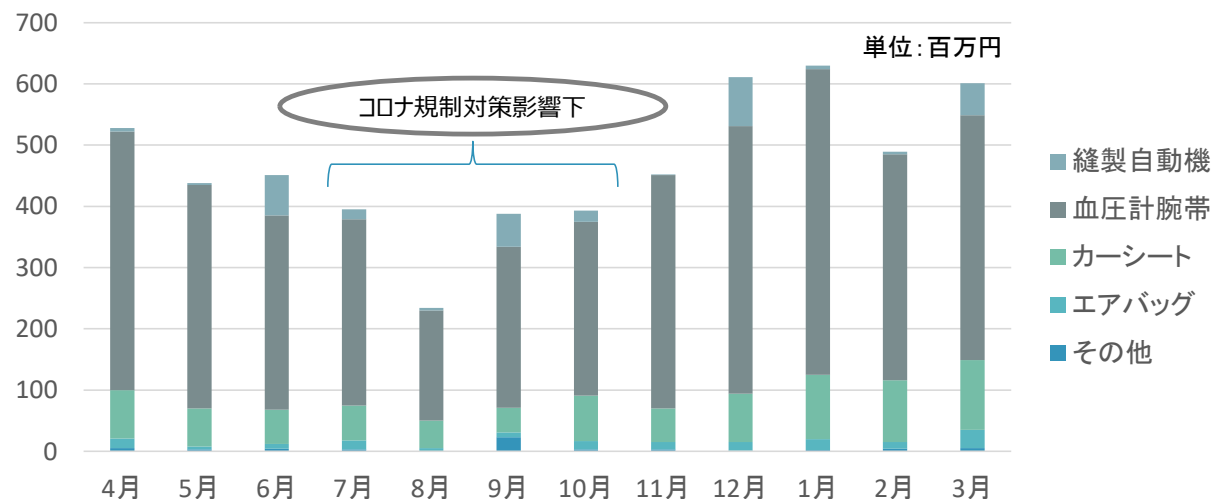
- ・アイソレーションガウンを除いて、血压計腕帯、カーシート、エアバッグ及び縫製自動機の売上高については増収傾向にある。
- ・特に2020年3月期からは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けても、血压計腕帯を中心に売上高は増加となった。

年間売上高推移



2022年3月期実績：月次推移

製品別連結売上高月次推移

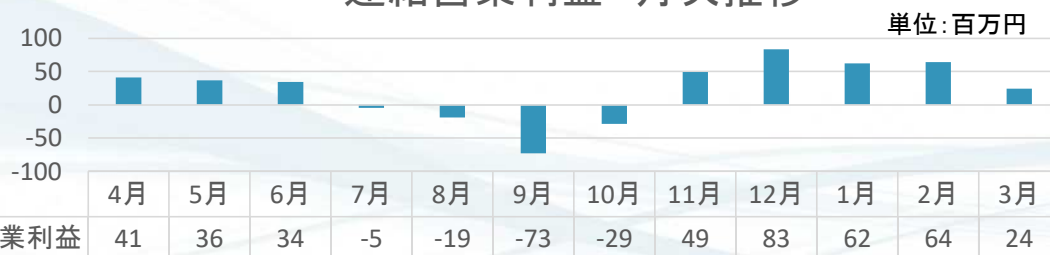


(7月～10月)
ベトナムにおけるコロナ規制対策により工場の出勤者が大きく減少し、稼働率の下落を余儀なくされた影響。

(11月以降)
挽回生産開始。ベトナム子会社における工場の稼働率も回復し生産量が増加。

(2月)
毎年、ベトナムのテト休暇により休日が多くなるため稼働日が少なくなることが要因。

連結営業利益 月次推移

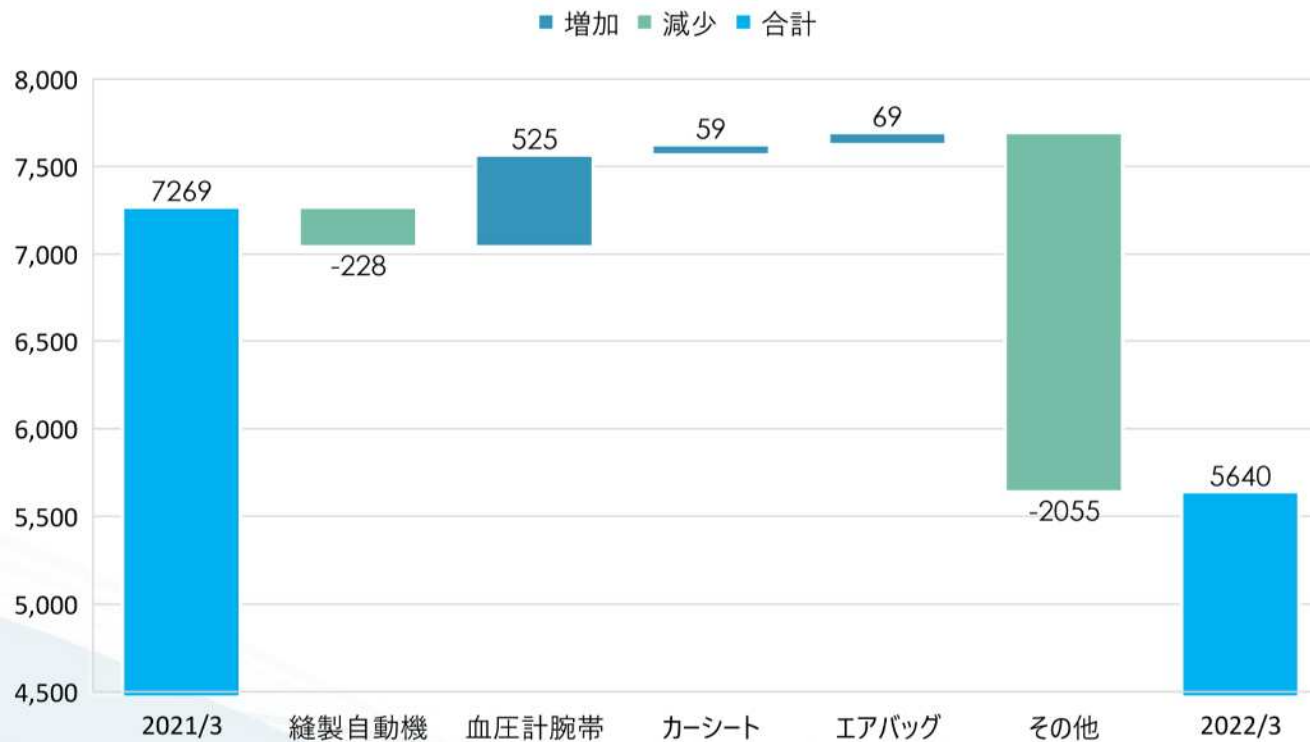


(7月～10月)
ベトナム国におけるコロナ規制対策により稼働率下落による影響。

(11月以降)
トヨタグループを中心に自動車工場の稼働停止の影響を受けたものの、血压計腕帯の受注は好調に推移したため、安定的に利益計上できた。

注：上記営業利益には「新型コロナウイルス感染症対応による損失」を含めております。

2022年3月期実績：売上高の増減



縫製自動機：315百万円（前期比△228減）

コロナ禍において、海外案件の受注が少なく、減収。

血圧計腕帯：4,226百万円（前期比+525増）

ベトナムでのコロナ対策規制により一時期、生産が減少するものの、健康志向の増加を背景に順調に受注数量が前期比14%の増加。

カーシート：874百万円（前期比+59増）

ベトナムでのコロナ対策規制により一時期、生産が減少するものの、挽回生産などで前期よりも増加。

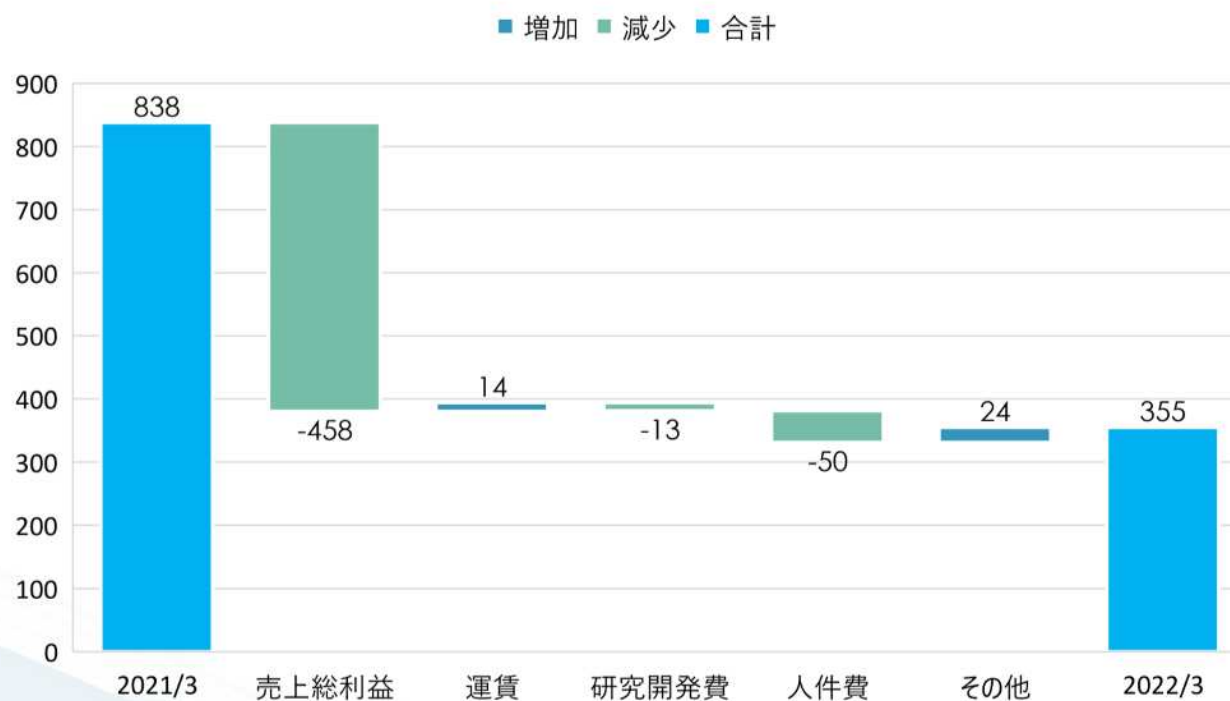
エアバッグ：162百万円（前期比+69増）

ベトナムでのコロナ対策規制により一時期、生産が減少するものの、挽回生産などで前期よりも増加。

その他：62百万円（前期比△2,055減）

防護服関連事業において、特に前年度の厚労省向けアイソレーションガウンの特需があった反動で減少。

2022年3月期実績：営業利益の増減



売上総利益（前期比△458）

血圧計腕帯について受注数量が増加したものの、特需となった厚労省向けアイソレーションガウンの受注が減少したことによるもの。

運賃（前期比+14）

子会社（松屋ベトナム）において、前年度から続いていた運送費の高騰が落ち着いたことにより、運送費が前年度より減少した。

研究開発費（前期比△13）

MICにおける主にエアバッグ用自動機の開発のほか、3D縫製自動機の開発費など

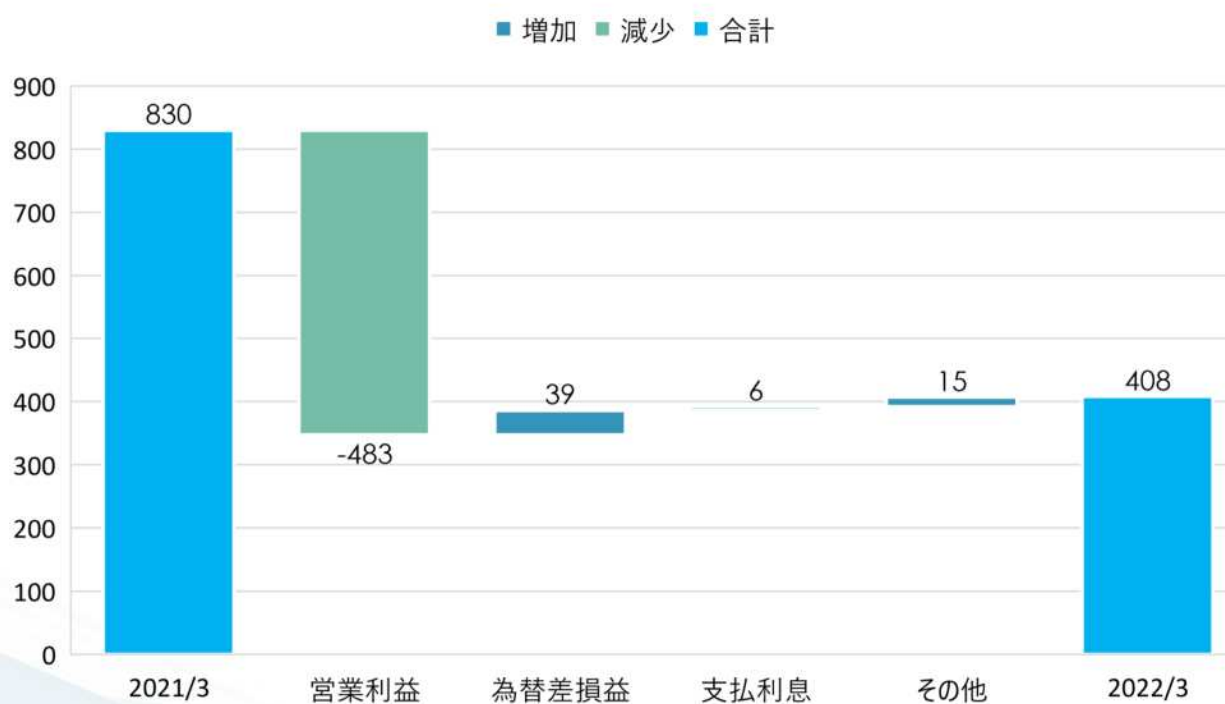
人件費（前期比△50）

海外営業、海外工場担当者を中心に採用活動を進めたことによる人件費増加。

その他（前期比+24）

業務委託費などの減少。

2022年3月期実績：経常利益の増減



為替差益の増加（前期比+39）

主にドル建て取引が多く、年度末に向けて円安ドル高になったことが影響。

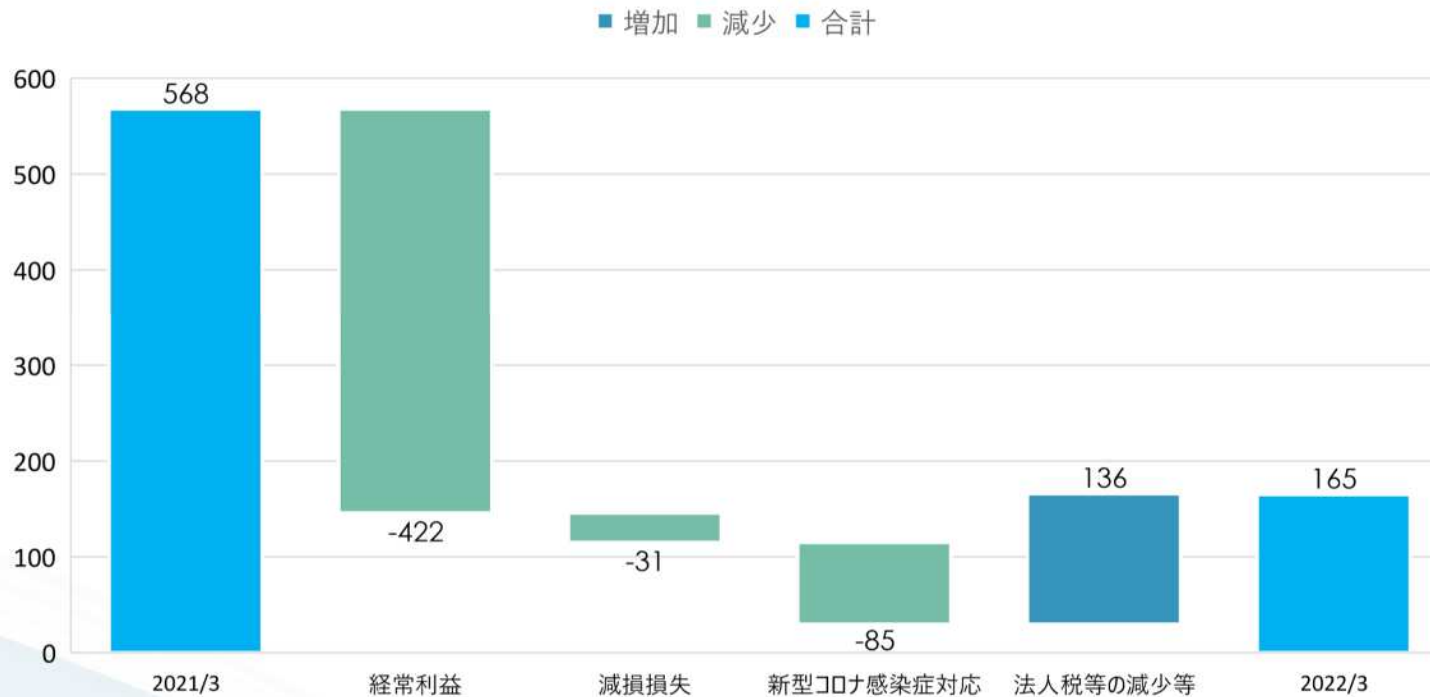
支払利息の減少（前期比+6）

借入金の期末残高は増加しているものの、期中において一部返済したことによる減少。

その他（前期比+15）

主に休業補償の補助金などの発生によるもの

親会社株主に帰属する当期純利益



法人税等の減少（前期比+136）
経常利益減少による法人税等減少。

減損損失（△31）
縫製自動機事業関連の固定資産の減損損失計上。

新型コロナウイルス感染症対応（△85）
ベトナムにおけるコロナウイルス感染症対策規制により、従業員の宿泊用の消耗品や設備などの支出。

2022年3月期：連結貸借対照表

		2021.3 実績 (百万円)	2022.3 実績 (百万円)	前期比 (%)
資産	現金及び預金	1,322	1,492	+13%
	売上債権等	2,003	1,367	-32%
	棚卸資産	1,840	2,544	+38%
	有形無形固定資産	784	1,190	+52%
	その他	253	293	+16%
	資産合計	6,204	6,889	+11%
負債	仕入債務	1,079	693	-36%
	借入金（長期含む）	841	1,385	+65%
	リース債務（長期含む）	418	423	+1%
	その他	1,064	1,149	+8%
	負債合計	3,404	3,651	+7%
	純資産	2,800	3,237	+16%
	負債純資産合計	6,204	6,889	+11%

- ・棚卸資産
エアバッグ新規取引開始などで松屋ベトナムでの原材料、仕掛品などが増加している。
- ・有形無形固定資産
ベトナム新工場の土地代金の支払による建設仮勘定の増加。
- ・借入金（長期含む）
ベトナム新工場関連の土地代金の借入。
- ・リース債務
ベトナムにおけるエアバッグ新規取引用の設備導入によるリース取引の増加。
- ・純資産
当期純利益の計上ほか、円安による為替換算調整勘定の増加。

※収益認識会計基準を遡及適用

連結キャッシュ・フロー計算書

	2021.3 実績 (百万円)	2022.3 実績 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	655	140
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 61	△ 484
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 43	504
現金及び現金同等物の換算差額	6	10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	557	170

	2021.3 実績 (百万円)	2022.3 実績 (百万円)
減価償却費	214	229
設備投資	△ 65	△ 464

営業活動によるキャッシュ・フロー

・前期アイソレーションガウンの特需により営業CFが大きく増加、当期は反動で減少したほか、コロナ対策規制によるロックダウンがあったものの、規制解除後のベトナムでの業況回復により、通期では営業CFがプラスとなった。

投資活動によるキャッシュ・フロー

・ベトナム子会社新工場のための投資による支出が増加した。

財務活動によるキャッシュ・フロー

・ベトナム子会社新工場投資のための借入による収入が増加した。

2023年3月期業績予想



Think sewing Think future

(2023年3月期業績予想)

- ・売上高については、ベトナム工場の安定稼働に加え、自動機の海外営業への注力するほか、メディカルヘルスケア事業の新商品としてリハビリロボット事業を開始し、最終的にはアイソレーションガウンの特需を除いて、過去最高を目指します。
- ・リスク要因としてコロナウイルス感染拡大による上海のロックダウン、半導体の供給不足及びウクライナ情勢などがあり、今後の状況は不透明であるものの、安定成長を目指します。
- ・投資面においては2024年3月期において完成予定のベトナム新工場建設計画を推進させていく。現在、土地取得のための代金90%を支払済み。6月もしくは7月頃に取得予定。

	2022.3 2月時点予測 (百万円)	2022.3 実績 (百万円)	最新予想 (百万円)	増減率
売上高	5,600	5,640	6,166	+9.3%
営業利益	330	355	410	+15.5%
経常利益	360	408	435	+6.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	150	165	315	+90.6%
1株当たり当期純利益(円)	28.51	31.42	59.74	+90.1%
1株当たり配当金	5円	5円	5円	—

成長戦略

メディカルヘルスケア事業およびセーフティシステム事業の拡大

ベトナムを中心とした生産基盤をもとに3D縫製自動化ラインなど自動化に取り組み、
メディカルヘルスケア事業及びセーフティシステム事業のそれぞれの受注を拡大

新たな業界への拡大

Medical Healthcare

医療用自動機の開発

リハビリロボット事業

最先端ウェアラブル機器

Anti Virus分野(防護服、ガウン)の縫製自動機及び縫製品

Safety System

3D縫製自動機の開発

自動化ラインの推進

ドローン用エアバッグ



当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

メディカルヘルスケア事業

1) 血圧計の市場拡大

(変化予想)

血圧計については今後も安定して市場拡大が見込まれる。

(今後の取組)

ベトナム国における新工場建設計画の推進により、生産能力を大幅に強化し、市場拡大に対応していく。

2) メディカルヘルスケア分野の拡大

(変化予想)

新型コロナウイルスだけでなく、今後の感染症対策も含め日本製の医療用製品の自動化需要も拡大していく見込み。

(今後の取組)

エムハートとコンサルティング契約締結し、リハビリ関連事業への進出（2022年6月頃開始予定）

最先端ウェアラブル機器について、他社と提携により、心拍数、体温測定等のセンサー及びDXシステムの開発

メディカルヘルスケア関連の自動機の開発・製造・販売（検査用スワブ自動機、医療用心臓人工弁の自動機開発など）

メディカル部門で前田工織(株)との資本業務提携を実施（2021年5月～）

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

セイフティシステム事業

1) 国によるサプライチェーンの見直し (変化予想)

ローコスト生産品については賃金高騰が激しい中国やタイでの生産からベトナム生産への移管が増加。

(今後の取組)

ベトナムでの受託先の拡大 (カーシート、エアバッグで新規事業開始)

MICにおけるエアバッグ用生産管理システムの導入により、品質管理能力の大幅な向上を図り、独自の生産ラインを構築 (2022年1月～)

ベトナム国における新工場建設計画の推進により、生産能力を大幅に強化。

2) 大きな業界再編、大手企業のアブレス化 (変化予想)

コロナ禍で当社を取り巻く業界においても大きな事業変化が発生。

変化の激しい環境にある中、需要の大きな変化に対応するため、アブレス化が進行。

(今後の取組)

積極的なM&A, 業務提携の活用

弊社製レーザー裁断機を使用し、裁断に特化した事業への取組

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

セイフティシステム事業

3) 設備投資回復の兆候

(変化予想)

メキシコとアメリカ間の貿易摩擦により一時的に減退していたメキシコ市場が、貿易摩擦の緩和により、メキシコでの生産設備商談が急増しており、需要拡大が見込まれる。

また、コロナ禍において設備投資需要が減退していた、コロナ後を見据えたヨーロッパ企業においても設備投資回復の兆しが見込まれる。

(今後の取組)

販売促進の強化、人材の多様化（外国人採用を拡大中）により営業力強化（2021年4月～）
ポーランドなど東ヨーロッパへの進出（2021年8月～）

当社を取り巻く業界の変化予想及び今後の取組

新規事業

1) 3D縫製自動機の開発

(変化予想)

縫製業界における人手不足がより深刻化してくる。

(今後の取組)

オムロン社と伸び縮みのある柔らかい素材の縫製を実現する3D縫製ロボットの共同開発を開始。

今後、複数の特許申請見込。

2) ロボットSI（ロボット・システムインテグレーター）需要の増加

(変化予想)

生産現場へのロボット導入を設計する専門職の需要が急増すると見込まれます。

(今後の取組)

ベトナムM I Cの技術者育成

ドライバー席用エアバッグの自動機（初号機）を開発。

3) ドローンの市場拡大

(変化予想)

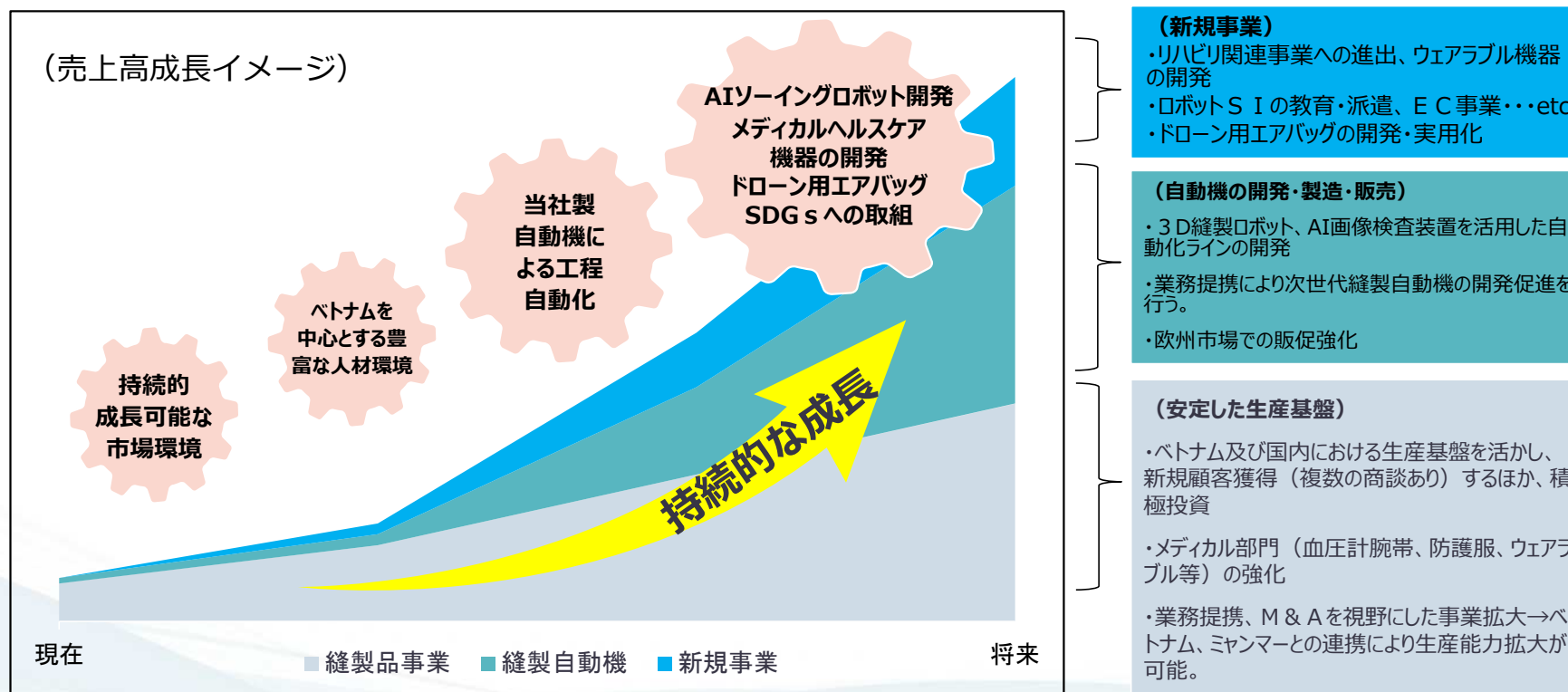
配達用など市場の拡大に伴い、安全装置としてドローン用エアバッグの需要が見込まれます。

(今後の取組)

ドローン用エアバッグの開発・製造・販売に注力

成長戦略 成長イメージ

安定収入を生み出すベトナムを中心とした生産基盤を活かし、次世代縫製自動機の開発及び新規事業を中心に経営資源を投入し、持続的な成長を目指します。



成長戦略

イノベーションセンターを活用した研究開発の強化



Think sewing Think future



- ・ベトナムのイノベーションセンターと日本本社と連携し、ロボット主体の自動生産ライン開発を更に強化
- ・イノベーションセンターにて優秀なロボットSIを多数育成
- ・ロボットメーカーとの業務提携も視野に入れながら、次世代縫製自動機の開発を促進

・日本とベトナムが連携してAIを開発し、優秀な人材を育成し、派遣も視野に入れていく



AIソーイングロボット

- ・双腕ロボットと画像処理システムを導入した3D縫製装置の開発
- ・関連特許を日本で取得済み、アメリカにおいては査定取得、欧州、中国にて申請中

画像AI検査システム

- ・エアバッグやカーシートの品質検査に使用することを目的として開発中

自社工場の生産ライン自動化

- ・ベトナム工場の生産ラインの自動化を進め、モデル生産ラインを構築中。将来的に新規事業として展開。

生産管理システムの開発

- ・これまでの生産ノウハウをもとに、誰が、いつ、どこで作業したかを詳細にトレース可能な独自の生産管理システムを開発し、早期事業化を目指す。

ドライバー席用エアバッグ縫製自動機 ...etc

- ・独自開発した画像認識カメラを搭載したAIロボットを7月より販売開始

本資料の取扱について

本資料には、将来に関する見通しや、事業戦略が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性が含まれており、実際の業績等が、これらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。

それらのリスクや不確実性には、一般的な業界、ならびに市場状況、金利、為替変動等の国内外の経済状況が含まれます。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、情報の正確性、適切性等については当社は何ら検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。